

1 【不登校・中途退学者を減らす】 中期的な重点取組目標

○居場所づくり・不登校・自殺予防教育で以下の取組みを行ってきた。

- ・ Y S W、S C 含めた生徒相談室の積極的な活用
- ・ 部活動、図書館、食糧支援等による居場所づくり
- ・ S O S を早期に拾い上げ、生徒情報を共有し、ケース会議を定例的に設定。
- ・ クローバー広場による肝試しや七夕のイベントを開催し、生徒通しの関係性を強化。
- ・ 外部講師による、自殺、薬物、婦人科系の相談等、生徒、保護者、教職員の研修会、講演会を複数回実施。

数値目標：不登校 170 名 転退学 30 名未満

数値結果：不登校 187 名 (186) 転退学 41 名 (30) () 内は昨年度
退学 21 名 (15) 転学 20 名 (15)

成果：様々な外部機関と連携を図り、S C, Y S W との継続的な相談を実施するとともに、家庭環境の複雑な不登校生に対する指導を充実させることができた。

課題：以前不登校の数は同等の数値である為、生徒個人だけでなく、家庭環境の複雑さやそれに起因した問題行動に対する、保護者のケア含めた対策を検討する。

2 授業改善（わかりやすい授業）

○「学び直し」「居場所づくり」「キャリア指導」を三本柱に、基礎学力の向上と探究的な学びを推進してきた。

○発達障害の生徒等に対する通級指導の実施。

○I C T、一人1台端末を活用した個別最適な学びの追求

- ・ 教員間の授業見学の実施。

○教育課程・学習指導

- ・ 面談期間と期末考査後で各教科補習を促進（のべ70名が参加）し、夏季補習・講習（のべ90名が参加）を実施した。

数値結果：授業満足度 93 % (95) 単位修得率 88% (87) () 内は目標値

成果：教職員の授業時の I C T 化が促進され、学びの効率化につながった。

課題：授業満足度は2学期末時点で肯定的な回答が93%となり、目標には届いていない。引き続き学習力・単位修得率の向上に向けて、補習期間の個別指導と併せ、学び直しを意識した授業改善、計画的な追認指導を実施する。

○生活指導

【体罰根絶・いじめ未然防止 部活動の活性化 生活規律の遵守 規範意識と社会性のある生徒の育成】

- ・ 卒業後の就労に向けた社会性の育成を生活指導の中核とする。

数値目標：年間のべ遅刻者数 12,000 名未満 部活動加入率 40%以上

数値結果：年間遅刻者数 15301 名 (14,912) 部活加入率 37% (38) () 内は昨年度

成果：生活指導だけでなく、クラス担任及び進路指導と連携し、生徒への遅刻指導を連携して取り組めた。

課題：生活習慣の改善と進路とつなげた指導など、遅刻指導の工夫、改善が必要であり、さらなる部活動等の居場所づくりの構築と指導者の確保を行う必要がある。

○進路指導

【多様な進路に対応するキャリア教育の推進】

- ・ 自立した社会人の育成を目指したキャリア教育を推進していく。

数値目標：進路決定率 100%以上 未定者3名未満

数値結果：進路決定率 98.4% (97) 未定者4名 (5) ()は昨年度数値

成果：各年次のキャリアガイダンスによる、生徒の進路に対する意識向上につながった。

課題：引き続き多様なニーズと個に応じたキャリア教育の充実、推進

○心身の健康づくり

【生徒の特性に応じた多様で柔軟な教育活動の推進 生命にかかわる事故の未然防止】

- ・ 生徒のSOSを拾い上げる相談体制を構築し生命にかかわる事故を未然に防止する。

成果：外部講師による、生徒、保護者対象講演会や教職員研修会を複数回実施し、専門的な知見を深める。

課題：医療、福祉の外部機関との連携と、相談支援体制の充実と保護者の支援

○家庭・地域の交流 広報活動

【地域交流や学校PRの推進 地域に愛される学校づくり】

- ・ 本校のミッションと地域が求める本校の役割を踏まえた広報活動を推進する。

数値目標：入試倍率 一般枠1.2倍程度 チャレンジ1.2倍程度

数値結果：入試倍率 一般枠 倍 (0.88) チャレンジ 倍 (1.12)

成果：本校の指導方針が広く理解されており、前期においてはチャレンジ枠及びI、II部で倍率を維持した。

課題：後期募集では、I、II、III部の希望者が昨年度より減少し、定数割れの状況である。

○経営企画室・職場環境整備

【ライフ・ワーク・バランスの推進】

- ・ 育児休業の取得を推進していく。サービス事故を起こさない職場環境の整備に努める。

数値目標：超勤45時間/月0人

数値結果：月/平均2～3名 年間/6名

成果：男性職員の短期の育休取得2名を実現した。

課題：引き続き、職員の働き方改革の推進と、サービス事故防止の徹底に努める。

【最後に】

本校のスクールミッションは、「学び直し」と「居場所づくり」に集約され、様々な困難な背景を抱える生徒、保護者に寄り添った教育を心がけている。これまでの実績から、一定の水準で社会的なサポート等の関係機関との連携や相談業務の円滑な実施など、成果は上がってきている。しかしながら一学年10学級、学校で40学級という大規模であることや、昼夜間のため放課後がなく、教員の勤務体制が2形態（午前・午後／午後・夜間）に分かれていることから物理的制約を克服していくことが課題である。今後も、地域教育支援部派遣のYSW、地域の機関と連携を密にし、チーム学校で課題解決に向けて取り組み、生徒の居場所づくり、見守り環境の整備などの社会的なサポートを充実させ、学び直しにおける基礎学力の向上を促す教職員の専門性の向上が重要であるとする。